



令和 4 年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立住吉中学校

令和 5 年 2 月

大阪市内 住吉中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

十数年前には、本校でも、学校の荒廃が進み、生徒の問題行動が数多く見られた。

現在は、教職員の指導力とチームワークで、落ち着いた雰囲気と静かな環境で、日々の学校生活を送れるようになった。また、PTAや地域の皆様からも、正常化に向けて協力を惜しまず支援していただいた結果として現状がある。

学力面では、大阪市や大阪府の平均より高く、全国レベルの学力で推移している。令和3年度の全国学力学習調査では全国平均を僅かに下回る結果になったことや、高得点層と、低得点層の増加、無回答率の割合が全国平均や大阪市平均を上回ったことなどから、学力の2極化が広がりつつある現状が見えてきた。また、複雑な家庭環境を背負う生徒、SNSによる表面的な仲間関係、不登校生徒の増加、長年にわたって本校の教育活動を推進してきた教員の異動など、不安定な要素を持ちつつ、いつ十数年前の状況に戻ってもおかしくないといった緊迫した状況であることに変わりはない。そこで、「住吉中学校を荒らしてはならない」という強い信念をしっかりと持ち、本校の教育を良い方向に導き、生徒・教職員が「安全で安心な」教育環境を守り、校訓である「自主・協調」のもと、生徒が生き生きとし自ら考え行動できる住吉中学校を創る。

- 1 学校教育目標「確かな学力と豊かな人権感覚の醸成と育成」を目標として、「自分を大切にし、周りの人たちとともに夢をきり拓く子どもたち」という子ども像実現のため、「人にやさしい生徒、人にやさしい住吉中学生」を育てる。そのため、基本的人権の尊重を基盤に、教科指導・生活指導・部活動の3つの調和を保ち、落ち着いた状況で、活動・学習ができるよう環境づくりをすすめる。
- 2 大阪市内で部活動に関わって尊い命が失われたことは事実である。このことを真摯に受け止め、本校から体罰・暴言のない、活気ある学校をつくりあげる。この事件を教訓にして、スポーツ・文化活動そして、学習にも全力で取り組む生徒を育てる。
- 3 学力向上に向け、習熟度別授業・TTなどの取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、ICT機器を積極的に導入するなど魅力ある授業づくりを推進する。また、学力向上に向け、研究授業・公開授業を積極的に行う。
- 4 「チーム住吉」として教育活動を展開する。日常の教育活動における課題解決に向け、教職員集団としての協力を大切に活動を行う。生徒指導において「寄り添いながら厳しく（まず寄り添うことを一番に）」を徹底し、「あいさつ・掃除・部活動」をキーワードに、規則正しい生活習慣を身につけさせる。
- 5 「行事を通して生徒を育てる」を目標に、「生徒が主役」の学校づくりに取り組み、文化的行事・体育的行事が、一貫した流れの中で、系統的・継続的になるよう、学校行事を行う。

中期目標

令和４年度に策定された大阪市教育局基本計画に準ずる項目について、令和７年度末における本市の数値目標を上回る。

【安全・安心な教育の推進】

- 令和７年度の生徒アンケート「学校生活は楽しい」、保護者アンケート「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒・保護者の割合を90%とする。
- 令和７年度末までの校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%とする。
- 令和７年度末までの校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 令和７年度末までの校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和７年度に実施される全国学力・学習状況調査、中学生チャレンジテストにおいて、それぞれ全国・大阪府・大阪市の平均正答率を上回る。
- 令和７年度の生徒アンケートにおける「授業はよく理解できている」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 令和７年度の校内調査における「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を令和３年度(男子42.49、女子49.19)より2ポイント以上向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTを活用した授業を各教科、週３日以上実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。
- 働き方改革による教職員のゆとりの日を月1.5回以上設定・実施する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・校内調査における、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」という項目について最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において不登校の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ① 令和4年度の生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」、保護者アンケートにおける「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒・保護者の割合を前年度(生徒83% 保護者83%)より増加させる。
- ② 令和4年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度(72%)より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和4年度の校内調査における「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度（41%）以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において、いずれの学年も1.00ポイント以上向上させる
- ・各学年において、CEFR A1以上の生徒の割合を73%以上にする。
- ・令和4年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 令和4年度の生徒アンケートにおける「授業はよく理解できている」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度(81%)より増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ICTを活用した授業を週3日以上実施する。
- ・令和4年度の年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を75%以上にする。
- ・働き方改革による教職員のゆとりの日を週1回以上実施する。

学校園の年度目標

- ① スクールサポートスタッフや部活動指導員を4名以上配置し、教員の負担軽減に努める。

3 本年度の自己評価結果の総括

- 本年度の生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答えた生徒の割合は 89%、保護者アンケートにおける「子どもは楽しく学校生活を送っている」について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答えた保護者の割合は 87%であった。前年度(生徒 88% 保護者 88%)と比較したところ、どちらも 85%を超える高い数値で推移しており、安全で安心な学校づくりが継続して取り組まれていると捉えることができる結果であった。コロナ禍による影響を受けての教育活動も 3 年目を向かえることとなったが、一昨年度から引き続き、教科授業の実施が滞ることのないように、学校行事や学年行事をバランス良く運営することができるよう計画的に、学校行事の精選も継続しながら時間縮小や活動時間の工夫を行い、生徒にとって達成感のある充実した行事の運営を実施することができた。また、日常の教科授業についても円滑な進行計画に伴った学習活動を実施することができており、学力の向上を進めることができています。限られた時間を有効的に活用し、充実した取り組み内容を検討することで、学校行事や教育活動を少しでもより良い方向で達成感を高めながら展開することができてきている。これらのことにより、生徒一人ひとりの成長が構築され、高い数値での結果を得ることができたと推察される。
- 本年度の生徒アンケートにおける「授業はよく理解できている」について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合は 90%であった。前年度(87%)より更に 3 ポイント増加させる結果を得ることができた。要因としては、同じくコロナ禍の影響はあるものの、教科授業での学習時間の確保が計画的にできるようになり、大きく学校の臨時休業を要することもなく、余裕をもった教科授業の実施が展開され、教育課程を年度内に実施するための創意・工夫を行った演習時間の確保や、実習・実験、あるいは、実技練習の実施時間についても確保されるようになってきた結果であったと考えられる。今年度についても、教員が総力をあげて、教育課程の実施に取り組むことができており、よりわかりやすい授業展開を実施することができるようになってきた成果である。次年度以降もこれまでに培ってきた授業展開の創意・工夫に加えて、子どもたち一人ひとりの学習意欲の向上を念頭に置いて、授業改善を引き続き怠ることなく、わかりやすい授業展開の実施を進めていきたい。

(様式 2)

大阪市立住吉中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(中学校) ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ① 令和 4 年度の生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」、保護者アンケートにおける「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒・保護者の割合を前年度(生徒86% 保護者86%)より増加させる。 ② 令和 4 年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、「よく当てはまる(やや当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度(72%)より増加させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境実現】 全校集会や学年集会の場で、学校のきまりや規則についての話をしたり、毎月学校生活アンケートを取ったりして意識付けをする。また、各生徒専門委員会からの主体的な取組を組織する。 (生活指導部)	A
指標 生徒アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上とする。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境実現】 自立的な生活習慣や健康と美化に対する意識を高める。 (健康教育部)	A
指標 生徒アンケート「清掃活動や学校生活全般で、校内美化に努めている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上とする。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を推進する。 (共生教育係)	A
指標 個別の教育支援計画を作成し、年 2 回以上の検討会を実施する。また、障がいを理解する教育や男女共生教育を各学年 1 回以上実施する。	
取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 自己肯定感を育む系統的なキャリア教育や進路指導を充実させる。 (教務部・進路指導係)	A

指標 生徒アンケート「自分の将来や進路や生き方について考える機会がある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上とする。	
取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 人権教育年間指導計画に基づき教育実践を行い、人権感覚豊かな生徒（集団）の育成に努める。 <div style="text-align: right;">（地域連携係）</div>	A
指標 生徒アンケート「まわりの仲間を大切に思って行動している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上とする。	
取組内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 多文化共生教育を推進する。 <div style="text-align: right;">（国際理解教育係）</div>	A
指標 国際理解教育としての総合学習の場を設ける。平和学習や、国際理解教育を各学年で年 2 回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①生徒アンケートにおいて、肯定的に回答する生徒の割合が 99%で、目標を大きく上回ることができた。全校集会や学年集会、委員会活動を通して、規範意識を高めることができた。</p> <p>取り組み内容②生徒アンケートにおいて肯定的に回答する生徒の割合を目標を大きく上回ることができ結果、94%だった。自立的な生活習慣や健康と美化に対する意識を高めることができた。</p> <p>取り組み内容③個別の支援計画の検討会を 2 回実施した。各学年で共生学習や福祉学習も行うことができた。</p> <p>取り組み内容④各学年進路学習を、計画実施できた。現状では、「自分の将来や進路や生き方について考える機会がある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合が 94%以上である。</p> <p>取り組み内容⑤生徒アンケートでは「まわりの仲間を大切に思って行動している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は 99%であった。コロナ禍の影響もあり予定を変更して行ったものもあるが、年間指導計画に基づいて教育実践を行うことができた。また、今年度は住吉・住之江同推協の公開授業研究大会で本校の教育実践を報告し、より理解を深めることができた。</p> <p>取り組み内容⑥平和学習や国際理解教育を各学年で年 2 回以上行うことができた。毎週の国際クラブ（テヤンの会）を通して韓国・朝鮮について学び、文化祭などでその成果を校内に発表することができた。さらに、校外での民族交流会や音楽会にもすべて参加することができ、同じルーツをもつ同年代の友人たちと交流することができた。また、今年度は、韓国・朝鮮に限らないすべての日本以外の国にルーツをもつ子どもたちが集い、交流する機会を学期に 1 度持つことができた。それぞれが自分のルーツの国について調べ学習を行い、お互いの発表を聞いて多文化の交流を実現することができた。</p>	
次年度への改善点	

- 取り組み内容①来年度から校則が一部改定することに伴い、間違った解釈をした生徒が出てくるかもしれないことを留意しておく。そのため、教員間での共通理解をしっかりとしておく必要がある。
- 取り組み内容②来年度においても、継続できるように、生徒の自立的な活動ができるように、取り組みをしていきたい。
- 取り組み内容③個別の支援計画検討会も実施予定である。共生教育など今後さらに取り組みを充実させていきたい。
- 取り組み内容④今後の進路や将来について考える授業を各学年計画実施してきた。
- 取り組み内容⑤次年度も、引き続き、年間指導計画に基づき、教育実践に取り組み、人権感覚が豊かな生徒の育成に努めていきたい。
- 取り組み内容⑥全学年において、平和教育・国際理解教育を継続して進める。引き続き多文化交流の機会を設けていきたい。

(様式 2)

大阪市立住吉中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 41%以上にする。 ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1.00 ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 73%以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和 4 年度の生徒アンケートにおける「授業はよく理解できている」の項目について、「よく当てはまる (やや当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度 (81%) より増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>少人数別授業・習熟度別授業・TT などにより基礎基本の定着に取り組む。</p> <p>授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。</p> <p style="text-align: right;">(教務部)</p>	A
<p>指標 生徒アンケート「授業はよく理解できる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上とする</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、英語教育の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">(教務部・英語科)</p>	A
<p>指標 各学年において、英語検定 5～3 級程度の生徒の割合を前年度以上とする。特に、3 年生の割合は 50%以上とする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問し、郷土大阪を学び、深める取り組みを行う。</p> <p style="text-align: right;">(地域連携係)</p>	B

指標 1年生で人権施設、2年生で歴史・平和・文化施設のフィールドワークを年1回以上実施し、3年生の修学旅行では平和学習を含む人権学習に取り組む。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 運動に対する苦手意識を克服し、積極的に体力づくりに取り組む生徒をめざし、保健体育科の授業の工夫と部活動への積極的な参加を促す。 <div>(生活指導部・保健体育科)</div>	B
指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査における運動能力の種目について、6種目以上で令和3年度の全国平均を上回る。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 食に関する指導に取り組み、心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養や食事のとり方を学び、自ら管理していく能力を高める。 <div>(健康教育部)</div>	A
指標 生徒アンケート「朝食を食べている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上とする。	
取組内容⑥【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学習の習慣化や学習意欲の持続を目指し、学校元気アップ事業を活用し、自主学習会や長期休業中の補充学習会を行う。 <div>(教務部)</div>	A
指標 週1回以上の自主学習会の実施。また、長期休業中の補充学習会を合わせて20時間以上実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①現状のアンケートでは、90パーセントだった。今後も現状維持、成長できるように努めていきたい。	
取組内容②生徒アンケートにおいて肯定な授業評価が80%以上であり、その結果チャレンジテストやGTECの結果も、市や府の平均を大きく超えることができた。	
取組内容③1年生は、地域の人権施設に訪問し学習することができた。2年生は、3学期に大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問することができた。3年生は、修学旅行の平和学習を通して、今まで学んできた平和学習の理解をさらに深めることができた。	
取組内容④男子は8種目中6種目が全国平均を上回り目標を達成できた。女子は5種目を上回り目標達成には至らなかった。但し、体力合計点においては男女とも全国平均を上回っており、運動に対して生徒の積極的な取組姿勢がみられる。	
取組内容⑤生徒アンケートにおいて肯定的に回答する生徒の割合が、92%で目標達成することができた。保健委員会の取組みや、栄養教諭による食育の授業を通して、心身の成長や健康の保持増進について、考えることができた。	
取組内容⑥夏休み期間の学力補充を各学年3日実施。各テスト前にナイトスクールや自主学習用に部屋を開放など行った。	
次年度への改善点	

取り組み内容①今後も現状維持、成長できるように積極的に、習熟度別授業や TT など取り入れていきたい。

取り組み内容②今後も、進歩し続けるように努めていこうと思う。

取り組み内容③次年度も、引き続き、指標に基づいて、大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問する取り組みを行いたい。

取り組み内容④男女とも立ち幅とびが全国平均を下回ったため、授業内で工夫をし能力の向上を図る。

取り組み内容⑤来年度も、食育の授業を学年クラス毎に実施をしていきたい。自ら管理していく力を育てていくためにも、委員会活動を通して、生徒主体で考え、啓発していくことが必要である。

取り組み内容⑥今後も基礎学力定着に向けて、学習会を企画、実施していく。

(様式2)

大阪市立住吉中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において学習用端末を毎日使用することを、100%とする。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 働き方改革による教職員のゆとりの日を週1回以上設定・実施する。 <p>学校の年度目標</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業を各教科、週3日以上実施する。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を8日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 働き方改革による教職員のゆとりの日を月1回以上設定・実施する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、生徒の心の状態や日々の生活の状況を可視化、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応ができるよう取り組む。</p> <p>(教務部)</p>	B
<p>指標 授業日において学習用端末を毎日使用する項目を50%以上達成する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】</p> <p>ICT機器を活用し、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びに取り組む。</p> <p>(教務部・技術科)</p>	B
<p>指標 ICTを活用した授業を各教科50%以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。</p> <p>(教務部)</p>	A
<p>指標 教員全員の年1回以上の公開授業と年6回の校内研究授業・協議を行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ教員が働きやすい環境を整えるように努める。</p> <p>(主任会)</p>	B

<p>指標 年次有給休暇を8日以上取得する教職員の割合を 80%以上にすると共に、働き方改革による教職員のゆとりの日を月 1 回以上設定・実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組み内容①授業日において学習用端末を毎日使用する項目が 50%に至っていない。</p> <p>取組み内容②積極的に活用しているが、50 パーセントには至っていない。</p> <p>取組み内容③全教職員向けの研究授業期間を設けた。また、年 2 回ほど研究授業を実施した。</p> <p>取組み内容④月 1 回職員会議の日に「ゆとりの日」を設定しているため、17 時を過ぎることがあった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組み内容①今後積極的に活用し、使用を促していきたい。</p> <p>取組み内容②今後も積極的に ICT を活用して学習を進めていく。また、ICT 教育を進めるため環境や先生方の研修なども充実させたい。</p> <p>取組み内容③今後も指導力向上に向けて、研究授業など実施していく。</p> <p>取組み内容④職員会議の日に「ゆとりの日」を設定しているが、会議が 17 時に終わらないことがあるため、来年度からは職員会議以外の日程で「ゆとりの日」を実施するなど工夫する。</p>	